

島根県無形民俗文化財 益田糸操り人形グランドワ定期公演

演目解説
(上演順)

🎭 寿三番叟 ☆ ことぶきさんぼそう

古い猿学芸を伝えているといわれ、狂言では能の翁と同じように祝言曲として取り扱われており、顔見世興行や正月に芝居繁栄を祈るときにも演じられています。この人形の頭には作者である2代目大江定丸の銘が書かれています。

🎭 傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段 ☆ けいせいあわのなると じゅんれいうたのだん

殿様の刀を取り返すために盗賊となった十郎兵衛(じゅうろべい)・お弓(おゆみ)夫婦のもとに仲間から追っ手を知らせる手紙が届く。お弓が夫の身を心配していると、そこへ巡礼の少女がやってくる。話を聞くうちに、その少女が、ふたりが国を出るとき故郷に残してきた実の娘お鶴(おつる)だとわかる。しかし今は盗賊の身。親子と名乗れば娘にも罪がかかるので名乗ることができない。親探しを諦めるよう言うものの、お鶴は聞き入れようとしなない。お弓は親子の情に耐えかねてお鶴を抱きしめ、また娘もいっしょに暮らしたいと願う。お弓は心を鬼にして、涙ながらにわが子を追い返そうとする。しかし今別れてはもう二度と逢えないと思ひ直し、ふたたびお鶴のあとを追いかけていく。

🎭 伽羅先代萩 政岡忠義の段 ☆ めいぼくせんだいはぎ まさおかちゆうぎのだん

伊達家の重臣・刑部(おさかべ)は、幼くして伊達家を継いだ鶴喜代(つるきよ)の暗殺を企む。鶴喜代の乳母・政岡は用心のため実の息子・千松(せんまつ)をお毒味役とし鶴喜代の身代わりとなるよう言いかせる。刑部の一味・栄御前(さかえごぜん)は毒入りの菓子を「頼朝公より下されたもの」として鶴喜代に与えようとする。その菓子を奪って食べた千松は苦しみ、八汐(やしお)に無礼討ちにされる。我が子を殺されても顔色一つ変えない政岡を見た栄御前は、政岡が子を取り替えたものと思ひ込み、目的を果たしたと勘違いして狂喜する。後ろでは政岡が役目とはいえ、変わり果てた我が子を抱き上げ一人泣きくれるのであった。

🎭 山本一流獅子の一曲 ☆ やまもといちりゅう ししのいっきやく

おめでたい獅子舞を操り人形で演じます。この演目で登場する獅子は、糸操り人形が益田に伝わってきた当時のもので、少なくとも137年の歴史があります。



益田糸操り人形保持者会 会員募集

全国的にも貴重な糸操り人形を、後世に残していくために、一緒に伝統を受け継いでいただける方を募集しております。毎週金曜日に益田市立市民学習センターにて練習しています。興味のある方は、どうぞお気軽に見学にお越しください。

益田糸操り人形保持者会では寄付を募っています。活動支援をよろしくお願ひいたします。

— 練習見学、入会、寄付に関するお問い合わせ —

益田糸操り人形保持者会 島根県益田市多田町1036-33 TEL 0856-22-5808